

ベトナム・フエ市訪問を振り返って

JICA（国際協力機構）の草の根技術協力の一環として、12歳教育（防災教育）をフエ市に紹介し、現地に合った形の防災教育プログラムの開発を支援するため、西条市から訪問団を派遣し広報10月号でその活動内容をお知らせしました。今回は、現地での活動に協力いただいた消防団、防災士、自主防災会メンバーの皆さんの感想を紹介します。

■消防団 木藤 清さん

日本と比べるとさまざまな面で改善すべき点があり、その一つが防災教育であると考えます。現地の多くの先生方は、土のう作りの時には熱心に取り組んでくださり、防災教育を受ける子どもたちの素直さとひたむきに努力する姿に感銘を受けました。ベトナムの未来は、この子どもたちを見たときに明るいと感じました。

■消防団 三村康行さん

学校での防災教育に熱心に取り組んでいるのに感心しました。土のう作りの実演講習で土のうの使用方法などを説明しましたが、特に女性の先生方の関心が高く、ひも締めに取り組んでいるのに感心しました。土のうの積み方への講習も行いましたが、いずれも熱心に取り組んでいるのに感心しました。

■消防団 萬條 裕さん

訪問した中学校が、防災教育に真剣に取り組んでいてすばらしいと思いました。生徒たちも目が輝いていました。土のうの作り方などを指導しましたが、

思った以上に関心をもって真剣に取り組んでくれました。西条市の取り組みがJICAの草の根技術協力事業で高く評価されており、すばらしいと思いました。

■防災士 村上善重郎さん

訪問した中学校では、先生方が防災教育に真剣に取り組もうとしていました。子どもたちもタウンウォッチングなどに熱心に取り組んでいました。フエ市の皆さんの熱意と努力によって、12歳教育をモデルにした防災教育が根付きつつあることを感じました。これからもフエ市の防災教育を応援し続けていきたいと思います。

■防災士 黒河紘一郎さん

毎年の洪水を対策もなく受け入れている現実の中で、学校や子どもたちが防災教育に取り組む姿勢に熱意を感じました。この事業のさらなる進展を願う思いでした。少し見守り、共に行動し、手を添え、アドバイスすれば着実に、「命を守る防災教育」に大きく寄与できることを実感しました。

■自主防災会 近藤和文さん

フエ市は昔から台風・洪水災害が多い所ですが、現地の人たちは特に気に留めていないようでした。こういう環境下で何ができるかを考えたとき、まず自助・共助の考えを浸透させること、そして防災技術を伝授することだと思っています。現地の人たちは、土のう作りに興味関心を持たれたようでした。

■自主防災会 久保一平さん

文化も風習も知らないベトナムで、私にできることはあるのだろうか…。考えもまとまらないまま中学校へ行きびつくり。ジリジリと焼ける暑さの中でも子どもたちは一生懸命活動し、真っ直ぐな笑顔で話してくれるのではないか。今回の訪問を機に自分の防災意識を高め、地域の防災活動の活性化に尽力していきたいと思っています。



▲フエ市関係者の皆さんと訪問団メンバー（フエ市消防署）
現地での活動にご協力くださいました皆さん、誠にありがとうございました。今後も西条市の12歳教育を紹介しながら、フエ市の皆さんとともに現地に合った防災教育プログラムの開発に取り組んでまいります。引き続き、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

フエウォッチング

テト（旧正月）前のベトナムは結婚シーズン。正月前に結婚式を挙げて新年を新しい家で迎えることが良いとされているからです。結婚式までの間に、新郎新婦の写真を撮りアルバムなどを作成することが最近のはやりです。

先日は、私の現地の友人カップルも結婚式用の写真撮影を行うというので私もついて行ってみることにしました。その友人は朝日を背景に海で撮影したいということで、その日は、朝3時から新婦のメイクが始まり、一日中、海や王宮、5つ星ホテルにて撮影が行われました。新郎新婦ともに3度のお色直しに、カメラマンの要求に始終笑顔で応えなければならぬので、終わるころには、2人ともぐったり。そのかきもあり、とてもすてきな写真の仕上がりになっていました。綺麗なドレスに身を包み、女優さながらのポーズでの撮影は見る側もとても楽しむことができました。お値段も日本と比べるとお手頃なので、結婚式用にベトナムでアルバムを作成するのも大切な記念になるかもしれませんね。（フエ市防災教育支援事業コーディネーター 中村範子）

